



# SHIRANE



Homepage

発行/社会福祉法人白根学園 発行責任者/三木 健太  
住所/横浜市旭区白根7-10-6 TEL.045-951-2669 FAX.045-951-7773



## 特集

### TOPIC 01

七丁目納涼祭インタビュー

### TOPIC 02

街角紹介

### TOPIC 03

事業所紹介(ホーム歩)



## 目次

- ・ 学園長挨拶 .....②
- ・ 会議報告 .....③
- ・ 行事〈七丁目納涼祭〉 .....④
- ・ 街角紹介 .....⑤
- ・ お知らせコーナー／職員エッセイ .....⑥
- ・ 事業所紹介 .....⑦
- ・ まちがい探し／編集後記 .....⑧

# トランジション・過渡期

2024年9月

学園長：飯山 文子

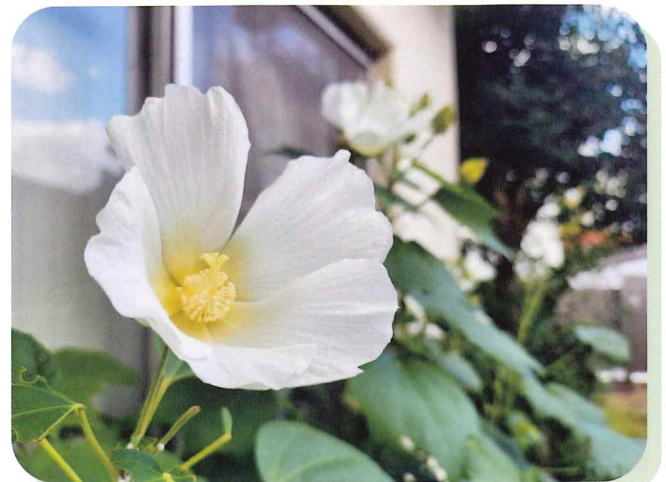
今年7月以降毎日のように「災害級の暑さ」という単語を聞くようになりました。白根学園の近くに旭区のプールがあり、かつては夏の間の外プールの営業期間中は、学園の利用者はもちろん近所の子供たちを中心にとても賑わっていたのですが、今年は暑すぎてこの日差しの下での外プールは危険、ということなのか閑散としています。このような災害級の暑さの中でも利用者さんの日々暮らしの営みが、「ふつうに」「あたりまえに」続くよう、ご本人たちはもちろんのこと、職員は日々奮闘しています。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類になって以降恐る恐る様々な行事を再開させながらコロナウイルスとの共存を学んできました。今年度に入ってからは、法人内各署、全開全力で行事を実施しています。そしてこの7月から8月にかけて、ほぼ4年ぶりにかつてのような形で夏祭りを開催することができました。7月26日には「7丁目」で、8月2日にはしらねの里で、8月9日には希望と芹が谷やまゆり園で、盛大に開催しました。この災害級の暑さの中、準備段階も含めて、大きなけがや事故もなく、外での行事が無事開催できたことに安堵するとともに、感謝の言葉しかありません。たった3～4年とは言えこの数年の間に入職した職員も多く、大きな行事に慣れな上、地域の方々の年齢層や暮らし方も変わってきたはずです。7丁目や希望の夏祭りにはかつてのように地域のお子さん連れの家族は来て下さるのだろうか、大きな音を出しても大丈夫かしら、ボランティアさんたちは来て下さるのか、しかもこの暑さの中…等々実行委員会の心配の種は尽きませんでした。しかし、ふたを開けてみると嬉しいことに、浴衣や甚兵等を来た小さなお子さん連れのご近所の方々、多分、向かいの保育園のお迎え帰りと思しきスーツ姿のお父さんに連れられた子供たち、通りすがりに賑やかな様子に誘われてふらりと寄ってくださった方々、沢山の方々に来て頂き、数年前の賑わいを取り戻し、暑い夏の夜のひと時をそれぞれに楽しませていました。利用者さん達もそんな大盛り上がり混ざって、大勢のボランティアさんたちに支えられ盆踊りやゲーム、「買い食い」を堪能しました。法人内それぞれの地域での夏の風物詩が戻ったことがとても嬉しく、白根学園、まだまだやれるぞ!と思った夏祭りの日々でした。当日ご来場くださった皆様、暑い中ボランティアでご協力いただいた皆様、そして各実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。

さて、話は変わりますが、白根学園では今年の4月から、いよいよ本腰を入れて拠点の再編プロジェクト会議が始まっています。何故今拠点の再編なのかは、以前もお話ししましたが、現在白根学園は、芹が谷やまゆり園を入れると法人内9拠点で38事業を展開しています。その内希望拠点と芹が谷やまゆり園以外は、旭区白根近辺で措置時代に立ち上がった各施設をバックアップにして29事業が集中しています。この20年ほどの間に障害福祉の制度や世の中の価値観が大きく変わってきたにも関わらず、各事業は旧法を基にした施設拠点に括られたままだったため、それぞれの運営に少しずつ苦しさを感じるようになってきていました。そこで遅ればせながら、現行の拠点編成を、未来志向の拠点に再編することになりました。

まずは来年度実施を目指してGHの拠点の再編から動きます。こちらについてはおおよその形は決まりつつあります。その後には日中活動の事業の再編を予定して現在会議を進めています。遅くとも2027年にはすべての事業が新しい拠点編成で動き始めていられることを目標にしています。そこに向けて各拠点ですでに色々な「宿題」が持ち込まれ検討を始めていることと思いますが、この先、具体的に日中活動の事業再編を実施していく段階では、係長さんや主任さんたちにもプロジェクトチームを作って動いていただくことになると思います。

折しも、来年度から、現在運用している人事考課制度を、20年後の白根学園をイメージして刷新するべく、説明会が始まります。世の中が大きく変化している今、行事以外でも、白根学園、まだまだやれるぞ!とみんなの知恵と力を集結して、更に一步を踏み出して行きたいと思っています。



## 📖 ホイップバター 店舗会議

社会就労センターのぞみ：前川 結衣

社会就労センターのぞみでは、前回のお知らせコーナーにありました店舗リニューアルオープンに向けての会議を昨年度より定期的に続けて参りました。

この会議は就労継続支援B型利用者さんの工賃向上を目標とし、ネット販売導入への検討から始まった会議です。ネットショップ開設にあたり、写真の素材集めや、店舗名、ユニホームのリニューアル等、検討を重ね、現在の店名である「ホイップバター」として運営することが決まりました。職員それぞれの得意とすることを活かし、利用者さんとデザインを形にし、晴れてネットショップを開設することができました。しかし、ネット通販を開始し売上が伸び悩んでいた所、のぞみのお菓子を応援したいというお客様とご縁がありました。そのお客様は起業をされているため、店舗会議にも参加して頂き、販売についてのアドバイスを頂戴しました。例えば、パソコンやスマートフォンで「ホイップバター」と検索した際、当店のショップページが表示されやすくなる方法やSNS(インスタグラム等)の活用方法など、起業のノウハウを知る事ができました。わたしたちがどこを目標にしているのか、リニューアルに向けてやるべきことが明確になりました。また店舗リニューアルに向けてチラシ作成、ポスティング等を行い、店舗へ足を運ぶお客様も増えています。

まだまだ店舗運営としては沢山の課題がありますが、利用者さんの工賃向上、そして地域に愛される「白根学園のお菓子屋さん」を目指していきたいと思えます。

## 📖 希望拠点 HJN会議

希望 HJN委員：三浦 淳ノ介

希望拠点では、毎月「ヒヤリハット」・「事故報告」・「にやりほっと」について集計し、全体で共有しています。それぞれの頭文字からHJN会議を開催しています。中でも「にやりほっと」の報告は、昨年度月に20件程度でしたが、今年度は毎月30～40件近くあり、7月には56件でした。そこで、今回はにやりほっとに焦点を当てました。

「にやりほっと」とは・・・利用者さんのふとした会話ややり取りの中で、「にやり」と微笑ましいと感じた出来事や「ホッと」心が温まった瞬間のエピソードの事です。日々の様子を振り返り、利用者さんの良い部分や強みに目を向けることを目指しています。

### 〈委員が厳選したユニークな記録〉

#### ●事例1

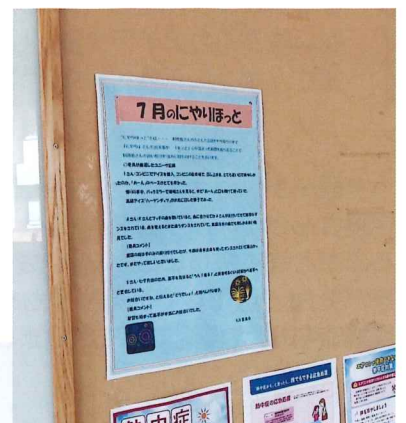
Kさんと近藤真彦の曲を聴いていると、曲に合わせてAさんが近づいてきて独特なダンスをされている。曲を変えるとまた違うダンスをされていて、童謡以外の曲でも楽しめる良い発見でした。

#### ●事例2

Sさんに七夕外出(平塚)のため、甚平を見てもらうと「うん!着る!」と表情が明るくなり洋服から甚平へと着替えている。お似合いですね、と伝えると「そうでしょ!」と誇らしげな様子。髪型も相まって甚平が本当にお似合いでした。

集団生活では、安全管理・健康管理等の面で、利用者さんに制限がかかってしまう場面があり、個性が発揮しにくくなります。一方「にやりほっと」に着目することで、その人らしさを発見し、支援者も新しい一面を発見することが出来ます。HJN委員会は発足して3年目と歴史の浅い委員会ですが、年々「にやりほっと」も報告件数は増加傾向にありますので、これからも委員会を通じて発信を続けていけたらと思います。

▶委員会では、毎月厳選した事例をポスターにして掲示しています。



## ◆白根学園 納涼祭◆

来場者数：592人 納涼祭委員長：向山 久仁雄



### ●地域へ向けた白根学園の夏の始まり 納涼祭!!

インタビュー：ホーム里 今井 賢次郎

白根学園七丁目の納涼祭が7月26日(金)に開催しました。当日はお祭り日和で、夏の暑さを十分に感じる気温の中、白根学園の利用者さんをはじめ、地域住民の方も多く参加していただきました。白根学園にとって大きな地域交流の機会の一つがこの納涼祭となります。そこで、納涼祭に参加して下さった方や今年度の納涼祭委員長に、直接お話を聞いてきました。

#### 《お客さんにインタビュー》

(記者) 今年の納涼祭に参加した理由や感想をお聞かせください。

(祖母) 納涼祭には、千葉から孫に会いに来ました。白根学園で働いている娘の子供と一緒にお祭りを楽しんでいます。

(記者) この納涼祭は、どのように知ったのでしょうか。

(小学生5人組) セブンイレブンの広告を見て、納涼祭を知った。クラスの友達から聞いた。アイスや焼きそばが美味しい。お祭りは楽しい。

(ミストを浴びる子供のご家族) 去年も参加して楽しかったので、今年も子供を連れて今宿の方から参加させていただきました。

#### 《セブンイレブン(協力店舗)にインタビュー》

(記者) どういった繋がりで開催に至ったのか教えてください。

(セブンイレブン店員) 私達の店舗は、白根学園風の丘の場所と同じマイムビルの1階にあるセブンイレブン横浜新井町になります。マイムビルのオーナーとの繋がりでお話があり、出店させて頂いています。毎年、納涼祭に参加する事で、私たちにとって「今年の夏がはじまった」と実感するようになりました。また、お客さんも沢山来て下さり、売れ行きも好調です。

(記者) 納涼祭についてそのような言葉を頂き、ありがとうございます。

#### 《納涼祭を終えて委員長(向山職員)にインタビュー》

(記者) 白根学園の一大イベントの納涼祭本当にお疲れ様でした。今回の納涼祭の委員長をやって嬉しかった事があれば教えてください。

(向山委員長) ありきたりな回答ですが、やはり参加者の「笑顔」だったり、感謝の言葉が一番嬉しかったです。

(記者) 多くのお客さんが訪れてくれましたが、集客の取り組みについてお聞かせください。

(向山委員長) この納涼祭に沢山のお客さんが来て下さった事を本当に嬉しく思います。タウンニュース、新聞紙の折り込み、自治会長さん、ケアプラザさん、協力店舗さんへのポスター配布等で告知に力を入れました。あと、仕事の終わりに近隣のビラ配りも地道に行いました。

(記者) そういった沢山の宣伝が今回成功した鍵になったのですね。協力店舗さんとの準備はいつ頃からはじめ、印象に残っている事があれば教えてください。

(向山委員長) 打ち合わせは、去年から少しずつはじめていました。どの店舗も納涼祭について前向きに参加して下さる事が、純粋に感激しました。特にポンパドールさんは「子供向けのゲーム導入や懐かしのロゴを使ってはどうか。」等多数のアイデアを出して下さい、納涼祭を更に盛り上げようとして下さいました。

皆さん本当にご多忙の中、時間を割いて協力して下さい本当に感謝しています。

今回インタビューとして参加して、納涼祭を通じて白根学園が地域住民や協力店舗さんにつながり、新しい出会いや沢山の笑顔が生まれるコミュニティに成り得るのだと強く感じました。暑い夏の中、保育園帰りのお母さん達の笑い声や小学生達が笑顔で過ごしている様子もあり、沢山の方に親しまれた「白根学園の2024年度納涼祭」は大盛況で幕を閉じました。



# 街角紹介

今回は食事外出で利用させて頂いている中華レストランと利用者さんから人気のあるお蕎麦屋さん、天気の良い日に外出で行ってみたいスポットをご紹介します。

## 陣ヶ下溪谷公園(じんがしたけいこくこうえん)

住所:神奈川県横浜市保土ヶ谷区川島町797

紹介者:風の丘 山岸 詠一

陣ヶ下溪谷公園は、横浜市保土ヶ谷区に位置する自然豊かな公園です。名前の由来は、鎌倉時代に源頼朝の御家人であった和田義盛が、この地で狩りのための陣を張ったことに由来しています。横浜市内で唯一の溪谷であり、木もれ日の差し込む森や涼しげな水の流れが楽しめます。遊歩道が整備されており、初心者でも安心して散策を楽しむことができます。

蛍も生息しており、特に6月には幻想的な蛍の乱舞が見られます。公園内の奥には蛍の保護区もあり、自然豊かで蛍が生息しやすい環境が整っています。上星川駅から徒歩約15分でアクセスできるため、気軽に訪れることができます。溪谷内を流れる小川のせせらぎや鳥のさえずりを聞きながら、自然の中でのんびりとした時間を過ごすのも良いでしょう。

公園ですが溪谷と名前に付く場所ですので、足元に気をつけながら、自然と歴史が融合した魅力的な場所を散策してみてください。



## 中華レストラン 風の音

住所:神奈川県横浜市瀬谷区三ツ境159-10

紹介者:風の丘 神長 蒼人

中華レストラン「風の音(かぜのおと)」は、家庭的な中華料理を提供する、温かみ溢れるレストランです。ランチからディナーまで、多彩なメニューを取り揃えており、特にコース料理はおすすめです。料理の一つひとつに細やかな配慮が施されており、刻みや一口カット、トロミをつけるなど、利用者さんのニーズに合わせたオーダーにも応えてくれます。

このレストランは、障害者が利用しやすい設計になっています。店内は完全なバリアフリー仕様で、車椅子利用の方や、歩行が不安定な方でも安心して利用出来ます。トイレも充実しており、車椅子が入れるトイレが3つ用意されています。

訪れるたびに、心温まる料理と店員さんの心遣いに癒され、安心して食事を楽しむことが出来ます。皆さんも是非一度訪れてみてはいかがでしょうか。



## 生蕎麦 白根家 本店

住所:神奈川県横浜市旭区白根3丁目1-10

紹介者:麦の丘 広橋 梓

鶴ヶ峰バスターミナルから白根通りに入り、すぐ右手にあるお蕎麦屋さんです。

お蕎麦をはじめ、ご飯ものやセットなどボリュームたっぷりのメニューを良心的なお値段で楽しむことができます。麦の丘の利用者さんは出前を頼まれることが多いようです。利用者さんのお気に入りにはカツカレー大盛り。優しい味わいのカレーにサクサクのカツがマッチし、ペロリと食べられるとのこと。天もり蕎麦も、歯ごたえのよいお蕎麦に熱々のてんぷらが最高です。どのメニューも食べ応え十分で、おすすめです。



# お知らせコーナー

## 今年も感謝祭を開催します

昨年に引き続き、地域の皆様楽しんでいただけるイベントや食事等をご用意しております!!  
麦の丘のパン、5月にリニューアルした就労のぞみ“ホイップバター”の焼き菓子等の販売も実施いたします。

地域の皆様への感謝を込めて、今年も開催いたしますので是非お越しください。



日時

2024年12月7日(土) 10:00~15:00

場所

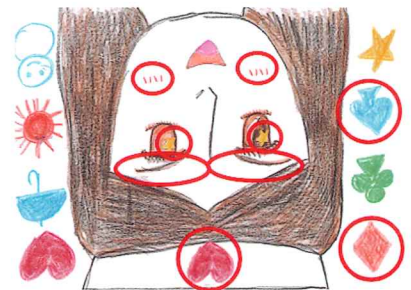
白根学園 (横浜市旭区白根7-10-6)

※当日は公共交通機関のご利用にご協力ください ※雨天決行

8P

まちがい探し  
の答え

※逆さになっています。



## 職員工ッセイ

光の丘：横溝 真弓

私が白根学園に入職して8年程経ちました。今は小学1年生の子供を育てながら、仕事と育児の両立に親の介護問題を抱えながら踏ん張っている所です。

さて、この記事が載る頃には白根学園の感謝祭も近くなっている頃でしょうか。もともと、白根が地元である私にとっては、子供の頃から見慣れてきた“バザー”表記の方が、“感謝祭”よりしっくりきます。

白根学園のバザーは、白根小学校～不動丸小学校エリアの子供たちが良く遊びに行っていたイメージで、かくいう私も子供の頃に何度か訪れた思い出があります。そして、白根学園の感謝祭(バザー)というとすぐに思い浮かぶのはピエロの木工細工人形。

ピエロの様な帽子に、ピンクのお顔に独特な目。  
ナナホシテントウムシを彷彿させるようなボディ。  
一度目にしたら頭から中々離れない、独特な姿かたち。

初めてその人形を知ったのは、30年以上前。祖母と初めて学園のバザーに足を踏み入れた時だと記憶しています。同級生の家を訪ねれば、だいたいの家庭に1体はあるという環境下でした。もれなく、私の実家にもありました。そのため、学園の感謝祭(バザー)と言えばこのピエロの人形を連想される地域住民はかなり多いと思います。

つい先日、製作にかかわったことがある職員・利用者さんからお話を伺った所、今は材料の調達が難しく15年前に生産中止になってしまったとのこと。人形が出来上がるまでの工程、彩色がペンキであったこと、何一つ同じ顔は存在しないことなど、作っていた当時のことを懐かしそうに語って下さり、その人形の名前が「いとつり人形」であることを30年以上たって初めて知りました。昔話に花が咲き、思わず感慨深いものを感じました。



### 共同生活援助 ホーム歩

ホーム歩：中村 仁

ホーム歩は2021年7月から共同生活援助事業を行っています。グループホーム数はアパートタイプが5棟、一軒家タイプが4棟の計9ホームあり、現在定員57名で53名(2024年8月時点)の方が暮らしています。2021年7月以前は通勤寮を経て、宿泊型自立訓練事業という、障害のある方が自立した生活を送ることができるよう有期限で自立に向けての支援を行っていました。現在はグループホームとして運営していますが、一人暮らしに向けて自立を目指す方が多く利用している所が白根学園の他のグループホームとの一番の違いです。

またホーム歩の特徴の一つとして、一般企業との関わりが多い事が挙げられます。一般企業へ就職されている方も多く、これから企業への就職を目指している方もいます。「皆さん、利用者さんはどの様に仕事を探しに行くかご存じでしょうか？」一般的には皆さんと同じです。仕事を探す方法としては、ハローワークで求人を検索したり、就労移行事業所に所属して仕事先を探したりします。また職員がハローワークに同行することもあります。ご本人だけではイメージがつかなくなったり、仕事の内容がわからなくなったりすることもあり、どんな仕事に向いているか、どんな仕事をしたいかを一緒に話し合いながら探していきます。そして希望する求人があったら実際に応募し、面接を行います。企業側からの許可が貰えれば、職員も一緒に面接に臨むこともあります。ご本人が説明しきれない部分の補足説明や配慮してもらいたい事を職員から企業へ伝え理解して頂き、就業開始時にご本人が困ることないよう配慮をお願いしています。その後就職が決まると、企業訪問があります。企業訪問は定期的に行っており、現在就業している所には、某有名化粧品企業や紳士服で有名な企業等、多くの一般企業に就労されています。

一般的に企業訪問時期は大体夏頃に行っています。新年度から3カ月程経ち、新しいメンバーやスタッフが変わって、少しずつ本人も慣れてくる頃です。仕事場での困りごとや日々の就業状況の把握、ご本人の仕事への取り組み方等、普段のグループホーム生活では見られない一面を確認する事が出来ると共に、継続的に就業してもらうために何が必要なのかを企業と共有できる貴重な機会となっています。

今まで問題なく就業されていた方でも、企業の担当者が変更になったり、ご本人が異動したり、新しい人が入ってきたりした場合、不安から泣き出してしまったり、イライラして仕事が手につかなかったりする場合があります。その際は本人や企業の人事担当者、保護者、計画相談担当者等と連絡を取り合い、どうすれば問題が解決するかを話し合います。現在一つの企業に30年以上就業されている方もおり、少しでも長く就業出来るようにするためにも、企業訪問はとても重要な支援の一つとなっています。(写真は企業訪問時に持参する菓子折りです。)

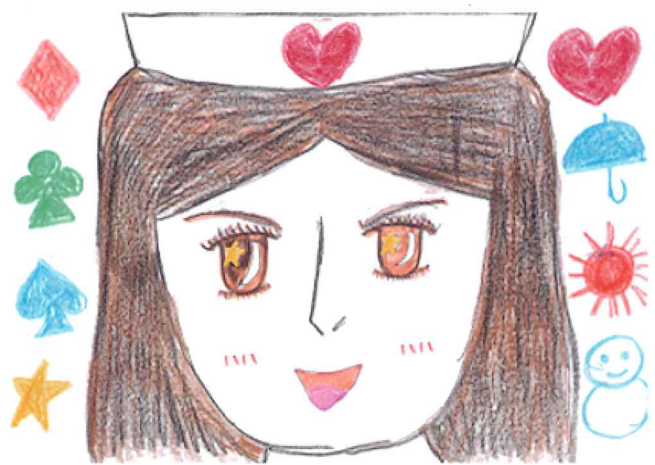
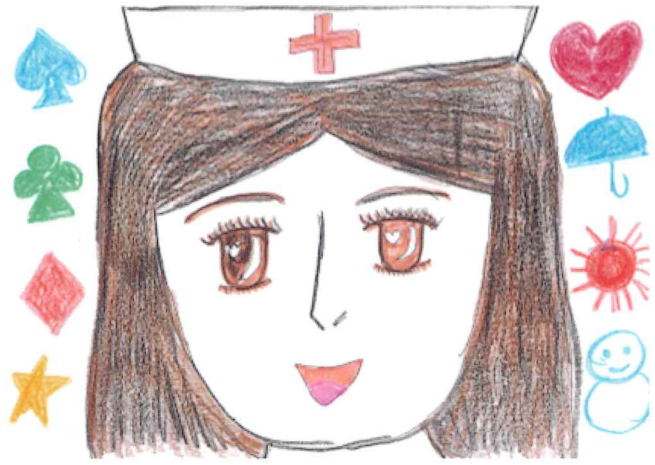
ホーム歩では利用者さんが今後の人生をどう送っていきたいか、どうしたら楽しめるか、幸せになるためにどうしたいかを利用者さんご本人と常に一緒に考えながら、これからも支援していきたいと思えます。



# まちがい探し

この上下の絵の違いがわかるかな？  
白根学園の利用者さんが作った  
まちがい探しです。  
9つの間違いがあるよ。  
左右同じ変化をひとつと数えると  
6つになるよ。  
よーく見ないとわからないから  
頑張って見つけてみよう。  
答えは6ページにあるよ。

作：地域生活センター和  
星野 奈穂子さん



## 編集後記

ぶどうの実：有坂 大輝

今年の記録的な暑さも収まってきましたが、まだまだ暑い日が続いております。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。皆さんはどんな秋を堪能されていますか。

今年の夏はパリオリンピックが開催され、毎日、オリンピックに関するニュースで溢れていました。今回のオリンピックで私が特に感動したのは、女子卓球の早田ひな選手が銅メダルを獲得したことです。早田選手は試合開始5分前に左腕に痛み止めの注射をして試合に臨んでいました。早田選手が目標であるメダルを獲得できたのもドクターやチームメイトの協力があったからだと思います。目標達成には1人ではなくチームでの協力が不可欠です。広報誌に関しても各事業所の担当者が毎月会議を行い、次号には何を掲載するか、どうしたら広報誌を読んで頂いている皆様に白根学園を知っていただけるかとワンチームとして動いています。これからも多くの皆様へ読んで頂ける広報誌を作成していきますのでどうぞ宜しくお願いします。

